

令和3年度 子ども・子育て会議 臨時会議（書面） 結果報告

- 1 開催日時 令和3年12月21日（火）（書面）
- 2 協議事項 病児・病後児保育事業の今後の取り扱いについて
- 3 意見提出 3名／11名

〈事業見直しについての概略〉

（1）費用対効果の観点から病後児施設は、令和3年度をもって廃止（病児保育施設の運営は継続）。

（2）病後児サービスについては、市がファミリー・サポート・センター事業を委託している「ファミリーサポートはおはお」に新たに「病児・病後児」の預かり事業を委託。

（3）「ファミリーサポートはおはお」が、従来自主的に実施してきた「病児・病後児対応」を、市の委託事業とすることで、以下のサービスが拡充され保護者のメリットとなる。

- ① 未就学児は、現在の病児・病後児保育と同じ料金（交通費別途）で預かりが可能。
- ② 病児・病後児ともに小学6年生まで預かりが可能。
- ③ 未就学児の病児は、預かり先（病児保育施設または、自宅）の選択が可能。



〈意見〉

○ファミリー・サポート・センターを利用する際に、病後児施設と同じ料金で利用できるのは良い考えた。また、未就学児の子どもを持つ親として、慣れない施設に預けるより、自宅で預かってもらえるのは安心感がある。

○車は一家に一台の家庭も多いと考えられ、サービスを利用したくても病後児施設が遠く、利用できなかった家庭に対して、預かり先の選択肢が増え良い案である。

○預かり先として、病気に関する知識が必要であり、何かあった場合の対応方法を明確にすることで、保護者も安心できる。

⇒ファミリー・サポート・センター事業については、アドバイザーが中心となり、活動時間中のサポート（助言）や、緊急時に小児科の指示や必要な医療が受けられるよう、医療機関との連携体制を築いていく予定である。

〈期待される効果〉

○「施設が遠い」や「慣れない施設に預けるのが不安」といった保護者の意見を事業の見直しによりカバーが可能。

○病児保育事業とファミリーサポートセンター事業の連携の促進により、利用の相乗効果も期待される。

令和3年度 えみふるふあいるに関する専門部会 結果報告

- 1 開催日時 令和4年2月25日（金）18時、であえる岩見沢
- 2 出席者 10名／13名

未就学児向けの取り組みとして、配布状況、3歳児健診時のアンケート調査結果、令和3年度の取り組み、令和4年度に向けた取り組みの方向性について協議。

令和4年度に向けて、未就学児には、保護者に認識してもらった視点から、子育て総合支援センターの各種行事の機会などを活用したPR等に取り組む他、ファイルの活用を促すため、保護者のインセンティブになるイベント等に取り組む。就学時に向けて、就学時健診におけるファイルの活用等の実施を検討する。

1 えみふるふあいる（ファイル）の配布状況

・配布の主となる、1.6か月健診の他、子育て総合支援センターやことばの教室などでの配布数が増加した。

2 令和3年度の取り組み

（1）3歳児健診・えみふるふあいるに関するアンケートの結果
 ・使用率は、12.2%という結果だが、ファイル活用の効果が出る年齢としては、早い時期であり、今後に期待したい。
 ・アプリの導入は、個人情報のセキュリティ問題があるため、ハードルが高い。
 ・ファイルのサイズは大型で、同年齢の子どもが何人もいる場合、持ち歩くのは負担になる。一方で、母子手帳や幼稚園の記録などもストックできるメリットもある。

（2）活用のためのPR・情報発信等について
 ・オプションシート（相談記録・成長曲線等）についても、引き続き普及活動を行う。

（3）関係機関連との連携
 ・相談の際に、支援者側で記録シートに穴開けして渡すと、保護者側の負担がなく、ファイルに情報がストックされる。

3 今後の方向性

（1）保護者向けの取り組み
 ・イベント時などにファイルの持参してインセンティブをつける場合などには、個人情報を持ち歩くことへの配慮が必要。

（2）支援者向けの取り組み
 ・ファイルを持つ児童が、就学時健診を受ける際にファイルを持参してもらい、診断結果をファイルに綴ってもらおう。その際、インセンティブをつけることも可能。
 ・それぞれの機関で、必要な情報を明確にし、それに合わせた様式なども準備する。
 ・ファイルを持って相談機関に行けば、その結果が綴られると保護者の認識が定着すれば、特段インセンティブが無くても、ファイルを持っているメリットになる。
 ・小・中・高校になって支援が必要になったとき、保護者も忘れていている過去の成育歴が有効であり、そのため時間を掛けてファイルのイノベーションに取り組む。